

(仮)おでかけシアタープログラム



事業概要

長距離の移動が困難な方でも参加できる地域の施設や、文化ホールに訪れることにハードルを感じている方でも集まりやすい場所に出向き、社会包摂型のアウトリーチを展開する。

社会包摂型のアウトリーチでは、完成された作品や公演を鑑賞するのではなく、アーティストや参加者同士の関わりの中で、文化をツールとして、参加者のコミュニケーションや創造力等を育む参加・体験型のプログラムを実施する。

各機関・団体に情報を提供し、既存の事業にも文化的要素を生かしたプログラムを活用してもらう。

対象

障害者、高齢者、子育て世帯等
※文化施設を訪れることが困難であると思われる方

目的、狙い

- ① 様々な背景を理由に、普段、文化ホールを訪れることが困難な障害者、高齢者、子育て世代等を対象とし、その方々の住み慣れた場所・活動の場にアーティストが出向き、文化活動の機会を提供することで、誰もが文化に触れる機会の充実を図り、心の豊かさ及びふるさと意識の醸成をはかる。
- ② 福祉、医療機関との連携を深め課題に取り組み、劇場法や文化芸術推進基本計画が文化ホールに求める社会包摂の機能を有し、活力ある社会を構築する役割を果たす。
- ③ 一方的な鑑賞を提供するのではなく、参加者のコミュニケーションや創造力等を育むプログラムを実施することで、周囲とのつながりを生み出す機会を提供し、孤立化の防止や介護予防等の取り組みの一助とする。
- ④ これまでになかった社会包摂の概念を取り組んだ事業を展開することで、文化ホールに対する新たな顧客層を開拓し、利用者の増加を図る。

課題、検討する事項(例示)

- 対象となる方が集まりやすい場所はどこだろう？
- どのような場所、曜日、時間帯で実施するのがいいだろう？
- 障害者の方を対象に実施するにはどのようなジャンル(音楽、美術、ダンス等)がいいだろう？
また、高齢者や子育て世帯には、どのようなジャンルがいいだろう？
- 孤立化の課題のある人への広報はどうすればいいだろう？
- 周囲とのつながりを求める人には、どのような参加・体験型プログラム(声を出す、体を動かす、考える等)がいいだろう？
また、認知症や介護予防が必要な人には、どのような参加・体験型プログラムがいいだろう？
- これまでから行われてきた慰問的な事業と連携することはできるだろうか？

など

ワークショップのまとめ



内容

ジャンル

- ・支援者も楽しめるジャンル(体を動かす音楽)
- ・ダンス、太鼓
- ・まちなかダンス
- ・手足を動かす運動方式
- ・どんなジャンルでも！ナビゲートする人次第
- ・〇〇探しスタンプラリー
- ・回想法

プログラムづくり

- ・コンテンツ作り、ストック
- ・本物を提供できるか
- ・提供できる人たちのネットワーク作り
- ・前提として提供できるか

開催場所

場所のイメージ

- ・駅近く
- ・段差のない出入りのしやすいところ
- ・馴染みの問題
- ・学校＋地域
- ・駅近く
- ・ワークショップの出前
- ・会社に出張
- ・アクセス便利
- ・14～15時、10～12時 施設に在宅
- ・その場所に行く

具体的な場所

- ・老人ホーム
- ・クリニック
- ・介護事業所
- ・スーパー、病院
- ・まちづくりセンター
- ・ロクハ荘、なごみの郷
- ・市役所ロビー

必要な配慮

必要な配慮

- ・他の人に迷惑という気持ちを取り除く
- ・子どもに聞かせたい！がうるさくても大丈夫？
- ・小学生対象なのに赤ん坊がいる。託児
- ・障害者もいろいろ
- ・プログラムサポートする立場もつくる
- ・子どもはじっとする静かにするのが苦手
- ・付き添いの方も楽しめる工夫が必要
- ・「慰問」という言葉は嫌々

その他

PR方法

- ・職員への周知
- ・市役所からのお便り

その他

- ・当事者に聞け！
- ・対象者への聞き取り